

ケアセンターけやき

症 例 概 要 利用者:80代・女性 要介護3

利用期間:2018年11月～現在

既往歴:慢性心不全 高血圧 慢性動脈閉塞症 アルツハイマー型認知症

経過:自宅では、同敷地内別棟にご長男夫妻が住んでおり、認知症発症後、奥様が介護を行っていた。しかし、周辺症状がみられ介護拒否されるようになると、ご家族も徐々に介護疲れが生じ、奥様の関係性が崩れてしまい、在宅生活が困難となり、2018年11月ケアセンターけやき地域密着型特定施設入居者生活介護に入居される。入居後も介護拒否が強く、清潔ケアのほとんどが困難となっていたが、職員が自分たちのケアを見直し、関わり方を変えたことで利用者さんに安心して穏やかに生活できるようになり、ご家族との関係も修復する事ができた。

内 容

ご自宅では、お風呂に入らない、衣類が排泄物で汚染しても更衣しない、トイレの床が濡れているなどあり、奥様が介入すると強い拒否がみられ、罵声を浴びることもあった。また、下着のまま外へ行ってしまい、警察から連絡が入ることもあった。やがて、奥様の疲れがピークに達し、利用者さんと関わる事が出来なくなり、遠方に住んでいる娘様も協力してくれていたが、それも限界となり、2018年11月に入居される。

日中は、入浴拒否や排泄介助の拒否が入居後も続き「やめてー」などと大きな声を出される事が多くあった。また、他利用者さんの居室に入られたり、「主人が待っている」や「娘が小さいので帰らなくちゃ」などの発言が聞かれ、帰る為の出口を探され、フロア内を不安な表情で歩かれていた。夜間帯は、ドアから何度も顔を出され外の様子を見られることが多くあり、フロア内を歩きまわり他利用者さんの居室へ入られたり、トイレへ行く回数も多く、不眠の日が続き、衣類や寝具、トイレが汚染していても拒否が強く介入が困難となっていた。

そこで、介護職員でカンファレンスを行い、関わり方を見直し、まずは、コミュニケーションの基本である、利用者さんの目線に合わせて話をする事を行った。主が歩き回り他の居室に入ろうとしても、決して否定的な言葉を使わず、フロアに飾ってある花や写真に注意を向けた。また、そのような時はトイレ

レを探していることが多く、こちらのペースではなく利用者さんのタイミングを見てトイレのお誘いをする
ことで、排泄で衣類や床が汚染することが減った。

また、利用者さんと関わる際、歌の本をお渡しし一緒に歌うと、気持ちが落ち着くことが分かり、そこ
で、入浴のお声掛けや衣類の更衣時には、歌を歌って介助すると拒否が減り、ケアがスムーズに行え
るようになった。夜間は、眠りにつくまで居室で歌の本を見て歌を歌われ、ゆっくり眠られるようになっ
た。疲弊していた奥様も、面会に来られ笑顔で過ごせるようになる。その矢先、コロナ禍による面会制
限の為、会えない日々が続いたが、5月中旬にスカイプでの面会を行ったところ、お二人ともとても素
敵な笑顔でお話し頂くことが出来た。

職員の都合で強引にケアを行うのではなく、自分達のケアを見直し利用者さんのご様子に合わせた
ケアを行うことで、安心して生活していただけるようになりました。また、ご家族との関係も修復され笑顔
で過ごせるようになったのはキラキラ介護賞に値するとし、推薦させていただきます。